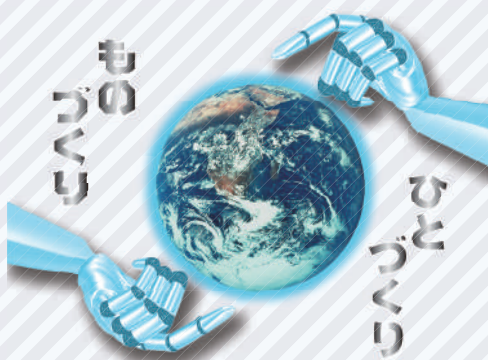


一般社団法人 実践教育訓練学会

The Society for Practical Technology Education

第7回 建築設計競技 作品集

2024年8月16日



主催 一般社団法人 実践教育訓練学会

協賛 株式会社 アイ工務店 (〒104-0061 東京都中央区銀座8-13-1 銀座三井ビルディング1階)
(五十音順) アイディホーム株式会社 (〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-46-25)

株式会社 インフォマティクス (〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー27階)

株式会社 総合資格 (〒163-0557 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階)

株式会社 ティーエスケー (〒261-8501 千葉県美浜区中瀬1-3 幕張テクノガーデンB棟6階)

株式会社 松下産業 (〒113-0033 東京都文京区本郷1-34-4)

メガソフト株式会社 (〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル11階)

テーマ 「健康配慮住宅」

人生100年といわれる時代となった。老人福祉法が制定された1963年当時の100歳以上の人口は、わずか153人だった。

今日、日本の100歳以上の人口は、8万人を超えている。しかしながら、平均寿命と健康寿命とを比べると、健康寿命が平均寿命より10歳ほど低いといわれており、健康寿命を延ばすことが喫緊の課題となっている。

気象条件に目を向けると、地球温暖化が進むことにより、夏季に熱中症の危険性がないこと、冬季にヒートショックの危険性がないことが求められる。一方で、地球の健康性に配慮するために、なるべく化石燃料を消費しない住宅が求められている。

日本健康住宅協会は、健康住宅を健康に住み続けることのできる“性能”や“設備”を備え、住む人が健やかな住まい方をしている住宅と定義している。また、2020年の警察庁統計・厚生労働省人口動態調査によると、家屋内事故の死因内訳の約57%が、住環境に関係しているという結果が出ている。

健康を維持するためには、人間の身体的な健康のみならず、家の健康、環境の健康なども併せ持つ必要があり、これらは密接に関係している。人間の身体的な健康を維持するためには、身体と精神の両方に問題がなく自由に自分らしく生きられることも大切である。また、病気になっても自然治癒力で健康に戻せることができる環境も必要である。

日常生活は、食事・生活・メンタル（心）の三つが柱から成り立っている。食事・生活の健康は物理的に見えるが、メンタル（心）の健康は見え難いから判断が難しい。質の高い健康や幸福とは、肉体的・精神的・社会的に満たされた健康な状態を示している。

高齢化社会に対応することだけに捉われない、万人に対しての健康配慮住宅を提案して欲しい。

(審査委員長：和田 浩一)

「審査講評」

作品を概観すると、楽しく豊かでストレスなく暮らすことを目的とした作品が多かった。その他に多世代や地域との交流、建物とそこに住む人の持続性、自然との共生などの提案があった。特に人と人との繋がりにより潤いのある生活を健康と捉えている作品が多いのが印象的だった。この設計課題をとおして、健康になるためには何が大事なのか、幸せとは何かについて自分自身に問うことができたのではないだろうか。

1等となった作品は、核家族化した若い世代の住宅に、賃貸として孤立しがちな老人へ部屋を提供することで他人同士の二世帯住宅をつくった。社会的な問題とその一つの解決方法を提案しているところが、大変魅力的で審査員に最も評価された作品になった。

2等になった①「ひといき 段差による空間の創造」は高低差を利用した距離感により空間の豊かさを演出し ②「木の輪、人の輪」は尾道の坂を利用した切り株のような建物から瀬戸内海の水道を常に眺めることができる生活の豊かさ ③「共存共栄 一子どもと建築の100年計画」はシングルマザーとなった二組の家族がスケルトン&インフィルを利用しながら持続的な家族を築いてゆく物語 ④「移住者ヒュッテ」は八丈島の山の中腹にあるヒュッテを訪れた観光客がやがて移住者となりヒュッテを持続してゆく作品 ⑤「歩きたくなる暮らし ～立体街路を内包する家～」は街中の建物の中心にさらに立体街路を設けてその中を歩き・上り下りを誘発させることにより健康維持を狙った作品 ⑥「湯で繋がる家」は銭湯の隣にあるオーナーの家の一部を銭湯の湯上りスペースとして利用することで地域のコミュニティを促進しようとする作品 ⑦「育む家」はベーカリーの1階と2階の建物をずらすことで一人になれる空間を提案した作品、入賞した八つの作品は、自然、家族と家の持続性、地域のコミュニティ、身体的な健康を上手く建築空間に反映した優れた作品だった。

(審査委員長：和田 浩一)

審査委員長	和田 浩一	職業能力開発総合大学校 能力開発院 教授
審査委員	安島 才雄	株式会社 総合資格 常務執行役員
(五十音順)	飯嶋 元広	アイディホーム株式会社 設計部副部長
	磯野 重浩	熊本職業能力開発促進センター
	井町 良明	メガソフト株式会社 代表取締役社長
	江川 嘉幸	山形県立産業技術短期大学校 建築環境システム科 教授
	川口 智也	株式会社 インフォマティクス リーダー
	斎藤 隆輔	株式会社 アイ工務店 取締役
	竹内 一	株式会社 ティーエスケー 代表取締役
	星野 政博	東北職業能力開発大学校 住居環境科 特任教授
	松下 和正	株式会社 松下産業 代表取締役社長

1等 実践教育建築デザイン賞

Garden house 『菜園でつながる二世帯住宅始めませんか?』

職業能力開発総合大学校 平戸 奨八



【講評】

1等となった作品は、長く健康に生き続けるためには、「遊ぶこと」で身体を動かすだけでなく、心を動かすことが大切だと考えた。そのため、核家族化した若い世代の住宅に、孤立しがちな老人へ賃貸として部屋を提供することで親子関係にない他人同士の三世帯二世帯住宅を提案した。

オーナーである若い世代にとっては、家賃収入もあって子供の面倒をみてもらうことで子育ての負担軽減となり、子供にとってはお年寄りから様々なことを学べる文化の継承という利点もある。老人にとっても孤独や身体的な不安を感じずに同居する小さい子供から元

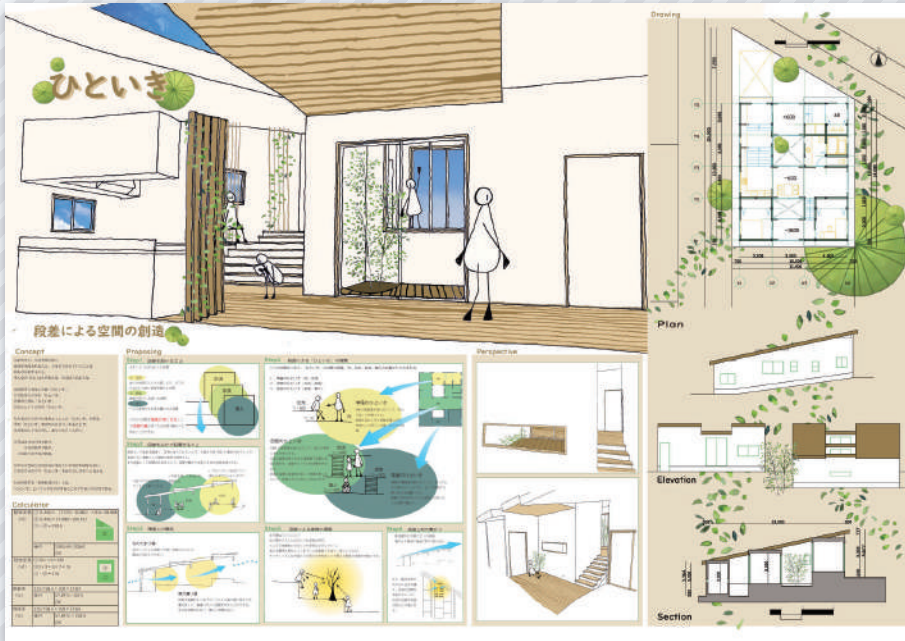
気がもらえる利点がある。

二つ目のコンセプトとしてガーデンハウスにすることにより、自らの手で食べるものをつくる食育の効果を狙っている。家庭内でも会話・交流を促進し、近隣との交流によるコミュニティ形成により社会的な健康に考慮している。建物の周囲と内部にたくさんの菜園を配置し、一定の距離感を保ちつつ菜園を通じて徐々に親子のように暮らして行くという提案である。本作品は、高齢化という社会的な問題の一つの解決方法を提案している点が大変魅力的だったことから審査員に最も評価された。

2等 株式会社アイ工務店賞

ひといき 段差による空間の創造

近畿職業能力開発大学校 一色 果乃



【講評】健康への配慮を「ひといき」いれて休息をとることとし、日常の「ひといき」を空間に取り入れた住宅である。敷地がある地域は緩やかな坂になっており、その傾斜をヒントに床面に段差のあるプランをコンセプトとしてゾーニングを展開している。年齢とともに変化する身長に目をつけ、段差をうまく使うことで補うことができるという着眼点が良い。さらに中庭を設け緑のある空間とし、光や風の通り道と「ひといき」いれる場を各所に設けている。外観は敷地周辺の緩やかな坂に合わせた勾配の屋根として町の景観に溶け込むデザインとしている。年齢を重ね、体が衰えてもいつもと変わらない空間を見て感じるができるため10年、20年、何年経っても居心地が良い住まいを感じさせる提案が高く評価された。

2等 アイディホーム賞

木の輪、人の輪

職業能力開発総合大学校 本山 龍

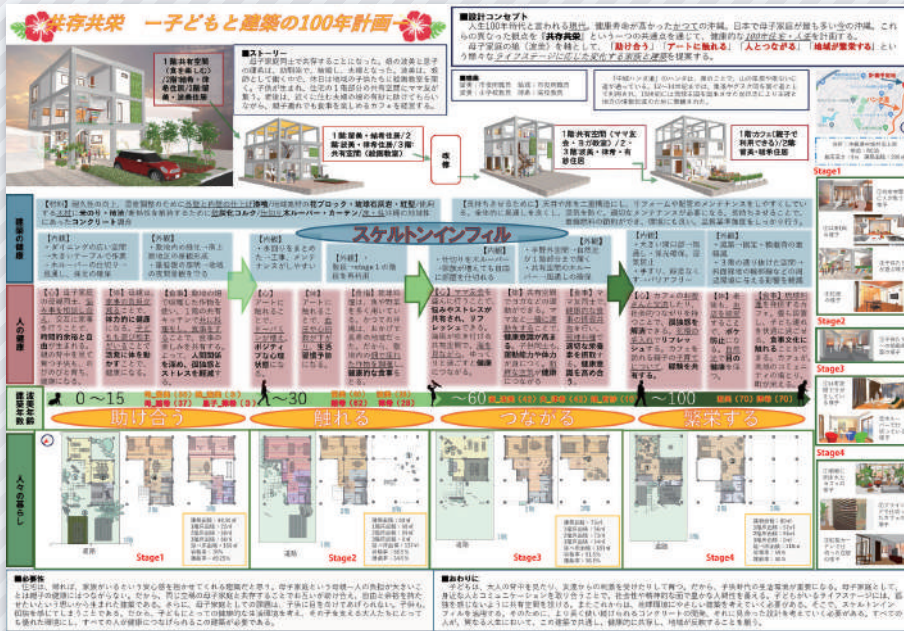


【講評】瀬戸内海を見渡せる高台に設定していることにまず気をひかれた。作者は「心の健康」をコンセプトとして計画していることがこの1枚のパスで良く分かる。自然の中で過ごし開放的な景色を眺めることで得られる心の安らぎや感動は、心の健康を健全保つために重要な要素と考え計画している。建物の形状や材質として「樹木」にこだわり自然との調和も良く考えられている。自然との一体感も強く感じられる。建築物の構造的な配慮として、風を操る壁は施工上の検討が必要だが、カーテンウォールのダブルスキン構造に似たものを住宅に取り入れる発想が面白い。近年、問題となっているメンタル(心)が建築的機能と有機的建築が相乗し人間の身体的な健康が維持出来るのではないかと期待する。樹木内部の維管束より着想を得て人の心の健康に結び付けた建物計画や発想が面白い。以上の点から高く評価された作品である。

2等 インフォマティクス賞

共存共栄 ー子どもと建築の100年計画ー

沖縄職業能力開発大学校 眞栄里 愛佳



【講評】 沖縄県中城村に計画されたRC造3階建ての住宅の提案である。計画の軸を建築の健康と人の健康の2点から考え、建物をスケルトン・インフィルの考えをもとに、住まい手が歳を重ねるライフステージに応じて変幻自在に用途を変えることが可能としている。100年にわたる長い時間軸を15年から30年を一区切りに、助け合う、触れる、つながる、繁栄する、と四つのステージで住む人の暮らし方を言葉と平面プランで示しながら、体と心の両面が健康につながることを表現している。建物の計画は設計して終わりではなく、ライフステージに応じ住み始めてからの時間軸もよく考慮している点が高く評価された作品である。

2等 総合資格学院賞

移住者ヒュッテ

職業能力開発総合大学校 山川 凱世



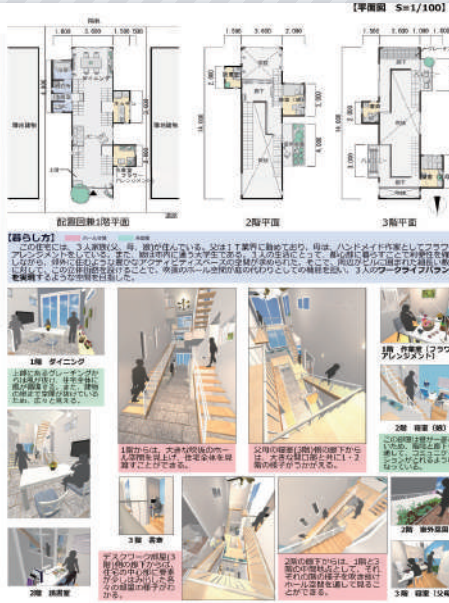
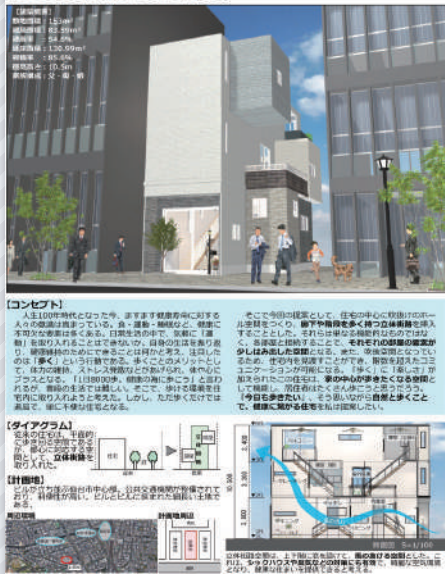
【講評】 東京都八丈島に移住者ヒュッテとして計画された住宅である。住宅における健康配慮として、①「人の健康」温暖な気候と海風陸風を生かした環境配慮住宅 ②「家の健康」移住者を呼び込むという視点から山小屋を維持するという方向性を提案 ③「地域の健康」八丈島特産物のジャージー牛乳をうまく活用するという視点から、視野を広げて多角的な視点からとらえていることが、図面表現として美しく表現された作品である。総合的な評価視点に立ち、「身体的健康」「家の健康」「環境の健康」として、一定の運動量確保、精神面での低ストレス、環境への配慮(性能・設備)などにも着目している。若い学生らしい発想で提案されたとして高く評価された作品である。

2等 株式会社ティーエスケー賞

歩きたくなる暮らし ～立体街路を内包する家～

東北文化学園大学 川田 つばめ

歩きたくなる暮らし～立体街路を内包する家～



【講評】健康維持のためにできることを「歩く」行動ととらえコンセプトを展開したプランである。ビルが立ち並ぶ都市部の細長い敷地に合わせた計画で、中心部に吹き抜けを設け、その周囲に階段や廊下を巧みに配置して歩く仕掛けを設けている。個別の部屋は外部にオーバーハングしており外観のアクセントとなっている。周辺がビルで囲まれた環境のなかで、立体街路は明るい空間の確保、風の通り道として機能し、健全な住まう環境を創造し、人と家の健康をかなえている。このような立体街路を住宅内に作ってしまうという発想とリアルな建築空間としてまとめた作品が高く評価された。

2等 株式会社松下産業賞

湯で繋がる家

東北文化学園大学 引地 貴大



【講評】宮城県仙台市に現存する創業85年の老舗銭湯「花の湯」を舞台に、この隣にオーナーの住まいを接続して計画したものである。銭湯が長年地域に果たしてきた役割を考えながら、一方で空間構成の現状をもとに出された答えが「湯上り空間」の拡充である。これを住宅に取り込むことでコミュニティの拡張につながるとともにオーナーも精神的な健康を獲得できる。また、これは銭湯の営業継続にもつながることが期待できる。さらに言えば銭湯の公共性という面では、アパートやシェアハウスの計画がフィットした可能性もある。この既存の銭湯が持つコミュニティ機能を現状の把握をもとにしてさらに拡大しようとしたコンセプトが高く評価された作品である。

2等 メガソフト株式会社賞

育む家

沖縄職業能力開発大学校 外間 友梨

育む家
豊かな生活を育て健康になく家

スマートフォンの普及により、ひとりの時間が増え、関わりが増えた現代。閉鎖的な生活をすることで自覚のないストレスを溜め、うつ病などの症状が起る。ここで私は昔の町並みのような、近所の人とのコミュニティ(隣のつながり)、家族のコミュニティ(内のつながり)を再びここで豊かな生活を築き健康になく家と考えた。今回は、「地」「道」「間」にこだわり、外と内を育む健康住宅を提案する。

1 「地」にこだわる
宮崎県都城市は県の南西部に位置し、鹿児島県宮崎市に隣接する。まわりを山に囲まれた盆地で、自然豊かな環境が特徴的。また、山や川へのアクセスが良く、自然環境を大切にしている。また、道の駅や公園など、自然環境を大切にする施設が充実している。また、道の駅や公園など、自然環境を大切にする施設が充実している。

2 「道」にこだわる
計画地である、郡城市上野は千早通と併走し、かつて市街一帯の主要路として飲食店や物産店、イオンなどが多く存在していたが、今は商業が衰退している。道路に接した部分は、地域の人が集まるコミュニティを創出する機会を捉え、計画地をコミュニティと見做す。また千早通りを道路として整備する。

3 「間」にこだわる
この家の大きな特徴は壁で仕切られた各階層がないこと。「間」は地域の人のつながりを育む。お家が地域の人のコミュニティスペースとなる。また、壁に広がる大きな窓が外との境界を曖昧にし、開放感のある家にする。また、壁に広がる大きな窓が外との境界を曖昧にし、開放感のある家にする。

4 ダイアグラム
計画地をコミュニティと見做す。また千早通りを道路として整備する。

5 私の健康観
健康とは最終的には人が豊かな生活を送ることと考えた。そのためストレスを減らすための動植物や自然環境を整える。また、豊かな生活を送るためには、環境にも配慮することにつながる。

【講評】 宮崎県都城市のかつて繁華街として栄え、現在はシャッター街となっている場所に計画された店舗併用住宅の提案である。自然豊かなロケーションをベースにして、県産スギ材を用いることで環境負荷低減に加え精神的な癒しの効果も期待している。平面プランでは部屋の仕切りをあえて設けず、かつ1、2階の箱をずらして間を作ることににより、1階の店舗では地域とのつながり、2階は家族間のつながりを深めることができる。これは地域住民のコミュニティ形成の場にもなり、家族がストレスなく健康的に生活できる空間構成につながっている。これらの提案をシーンごとにパーツを立体的にうまく表現し、この住宅の存在意義を際立たせていることが高く評価された作品である。

上位作品

住宅街に隠れる自然界

沖縄職業能力開発大学校 高良 雄斗

悠々自適

東北職業能力開発大学校 遠藤 茉弥・佐藤 結月

住宅街に隠れる自然界
〜隠れる自然〜

自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。

1. 自然環境を活かす
自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。

2. 自然環境を活かす
自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。

3. 自然環境を活かす
自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。

4. 自然環境を活かす
自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。

5. 自然環境を活かす
自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。自然環境を活かす。

悠々自適
〜悠々自適〜

悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。

1. 悠々自適
悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。

2. 悠々自適
悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。

3. 悠々自適
悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。

4. 悠々自適
悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。

5. 悠々自適
悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。悠々自適。

上位作品

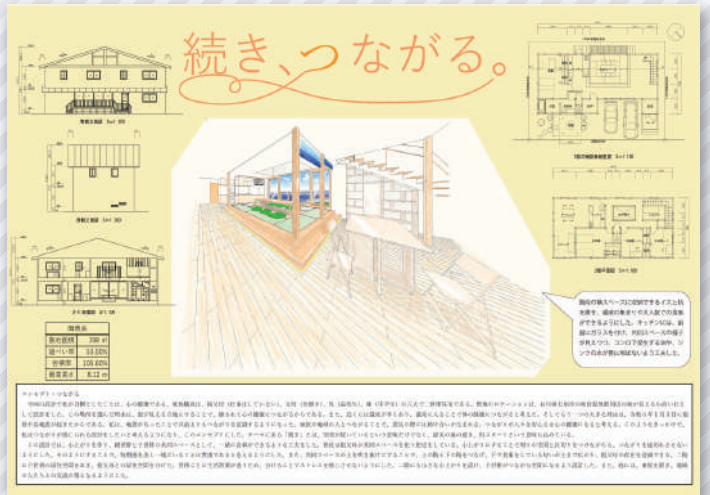
商店街を賑わす大屋根

東北文化学園大学 齊藤 吏玖



続き、つながる。

職業能力開発総合大学校 杉浦 康太・倉橋 智也・笹本 慶樹



離合集散

沖縄職業能力開発大学校 喜納 亜美伽



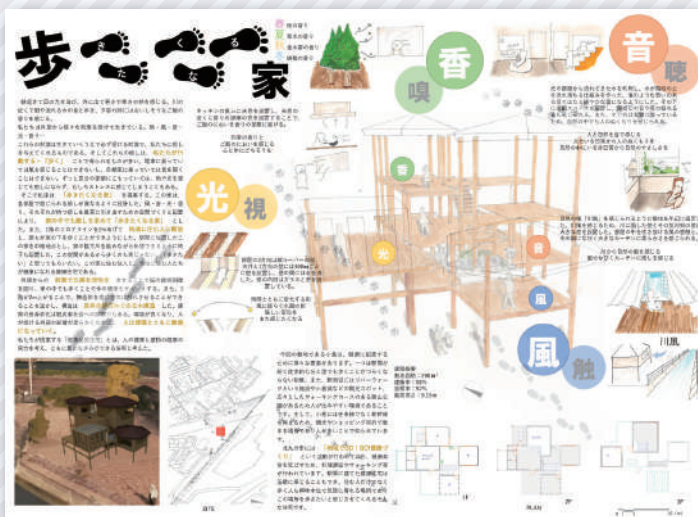
命をつむぐコレクティブハウス

千葉職業能力開発促進センター 朴 栄姫



歩きたくなる家

近畿職業能力開発大学校 上原 侑子・神崎 颯太



自宅で健康づくり～無病息災の家～

東北職業能力開発大学校 加藤 萌・佐々木 舞

